



特別  
~13  
4147  
2



113  
4177  
2

武道傳來記

徳園歌討

目錄

才一

あひ入吹女尺八

為鞠よるこんそびら

才二

見ぬ人良く育れそふり

熊野小巻れ雨影出ら

卷二



才三

身袋破るは落書の園

水浴せの志やしくる他る

才四

命とて海へ入奥の海

忠孝志とて夫の指り

思ひ入映女尺八

安藝乃廣海へ新り枯木内通とらる。鞠れ上るさ  
りてくわあさこあさ指むして。家中小踏鞠乃柳の  
ひも月おた言以鳥記と踏巻れせと侍居たりあり。  
あてて舞ひ葉巨圓れとやり物小みけ移りるはあけ  
とぬ友小福徳安清とて教小毎目わり人あり。と夜  
よそ秋玉に言多しは又鞠好まるとなと葉あさ  
乃舞乃あり。小と中。小島川系志鳥の才村之助と云  
と。年十八角お髪形く。美乃花の若ありぬ。あ  
當とつりて若あり。多足換まれば。て教返と打鼓と  
藩れ花昌ねおら。多村之助とて。出巻れ。葉とけと。鹿を  
鞠の度秋乃枝小とありて。とれより。東乃池の源あり。とまけ  
小柳橋井か。内あり。源屋あり。是女と云。とて。紋屋あり。

さいに江戸裏に付松原井ら〜のこゝ大振袖の〜の茶  
 糸に継帯を〜のけり〜の〜の〜の〜の中程と金  
 乃後平登小糸の〜を房付團に握り繋ぐ〜  
 多小織女乃奇とよ何あ〜んとよ小糸れ〜くはあ小  
 深とよ海〜と面敷天人乃生梅〜か〜とよ小糸あり  
 おほか海〜と何〜のけり外あ〜のわれ鞠におも〜  
 られ〜とあ〜と〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
 守鞠よまにぬれ〜とあ〜の通ふ〜と〜と〜と〜と  
 ちあ〜とまの小西瓜ん合々多社を〜と〜のあれ〜  
 とあ〜の女のおま〜とあ〜れ材のゆも物あ〜とあ〜の〜  
 ぬれ控者〜より流小糸あり又竹垣と〜れはは娘を教め  
 ら〜とあ〜とあ〜と〜か〜と〜と花堂の〜と〜と〜と  
 く物ひかり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

てゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 湯〜の〜の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 控〜と〜の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 とあ〜とまの〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 か〜と〜とまの〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 一〜の男乃剛志小糸〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 う〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 目〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 ぐ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 ん〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 う〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 ぬ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 て〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と



古道 卷二

同居甚平二男甚平十九歳ふありて後と骨骸  
 ごとくまじりて葬らるるにけり未だけりて揚たけり  
 子よりひのぼ増れ小幡のあつせ追付源后の孫ひ  
 と後世同らして中ふ小幡り奥ふらしてめ成かたり  
 くれ腕の張り多く喜ぶ子乃由所信時と後統の  
 むも左意に小幡のむとて母親ふ成り  
 多の信成をむいて不孝れ第一あれたるにのり  
 乃後と極の信乃れあつて後の世と終ふありて  
 更妻のうとてむ掛く力と後ありの夜にたすつりあ  
 るとてむけのかり挽りふらひ入るれ甚平様への外  
 よりむび速へむせ法へとむひもむらもむらもむらも  
 法の内化してるも是見様れたつかく取引せむ  
 今より男あつてむらひむらひむらひむらひむらひ

かの口惜く恨もあつてむらひむらひむらひむらひむらひ  
 溪松よりむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 てゆらむとゆの子ゆらむとゆらむとゆらむとゆらむと  
 小幡是とてむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 飲ひかきむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 とむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 るれとありむ村のむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 せむれ甚平のむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 せむれ甚平のむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 乃乃と目殺むとてむらひむらひむらひむらひむらひむらひ  
 守りてむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ



より國務員乃目より廣瀨乃言る西白や別しつこ  
 乳女は年稚候とれば男を妻とれく廣瀨乃言  
 かく聞れらるしきもと流し備置れんとし心憂安  
 氣の切つとあぶお入いあもる川流を流るの流流れ  
 海まゝあつて回れてさるるさるる潤るあつて男もさるる  
 倍の心を流れ我の天宮御目と村の心を身をもさるる  
 付さるるあまをさるるさるるに打たるる若き人とさるる  
 一かひもさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
 倍りさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
 清くさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
 一かひもさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
 小見ゆ一動日後とて村丸小粒の候小打せ居候の言  
 ぬる言のさるるさるるさるるさるるさるるさるる

かみ人具小育の事分列

云云後あそそ肥後乃城下小名流ゆる言乃計之  
 わりま一流乃上よあり一子お傳乃を継りあて  
 お界の町大のゆと女は流るるり後まど求めど  
 柳屋とてあまの流るる流るる流るる流るる  
 乃流中一小名流あつるさるるさるるさるる  
 かつるる町若連と外記とつる人の妹小おさるる  
 十八とて流るる流るる流るる流るる流るる  
 胸乃つる乃若生しあまの計とつるさるるさるる  
 流るるさるるさるるさるるさるるさるる  
 いは然るさるるさるるさるるさるるさるる  
 さるるの流とさるるさるるさるるさるるさるる  
 小後流軍平とつるさるるさるるさるるさるる



藤小春一と年二十六とあるうらな妻とありけり  
乃孫子小宮保く常月飛鳥入へるありけり小春  
是へはし種より出入しし世よりありけり乃次  
乃見女ありとせりやと見ゆられし小春小春及外記  
の味方れは世の又とありた英女やう小春とあり  
合共く小春が人のとありし見女と候し小春あり  
いふありてし信したと格りありた小春ありけり  
小春ありて首尾ありしとありたやう小春合外記  
はありと仲人候しし内院へしとありけりし小春  
と相ありし乃孫とありては世にお月日十一日  
日とあり外記ありありの月言軍平ありしとあり  
小春の先ありしとありけりしとありては世の代  
乃孫とありし小春ありけりしとありては世の代

と面影とありし小春ありけりしとありては世の代  
乃孫とありし小春ありけりしとありては世の代  
と唇ありしとありけりしとありては世の代  
さりとありけりしとありては世の代  
小春とありしとありけりしとありては世の代  
りしとありけりしとありけりしとありては世の代  
とありけりしとありけりしとありては世の代  
りしとありけりしとありけりしとありては世の代  
乃孫とありしとありけりしとありては世の代  
乃孫とありしとありけりしとありては世の代  
世中ありけりしとありけりしとありては世の代  
乃孫とありしとありけりしとありては世の代

小繩とくけく 翁小押込長持よりをゆへに外記  
 門外小注しをせうれいやくし世に口やくあひはめ  
 宿りあかつくど軍平こころ自害して早よけり  
 外記後患あつど早るしそくけつくれ軍平かこ  
 一は覚悟して大門ひくそく時後外記よりとりて  
 去園おふしそくあがゆとぬ方よりをたきしそく  
 さくしをまるせふしそくせくどやうくあまふ二人  
 切外口へ入しそくを身せ奥へ切入西と石倉敷たけ  
 このころ案内軍平よかり入しそくあつぐりしより  
 十み字しそく突付つた外記いふれを身をたのむに  
 立さらだしゆら小まおごるや小立のたは小あま  
 色打と推一家ゆくそくどめ後小なりきり  
 毛打外記中九命とあつる熊野山一身を回らる



て糸指りぬまらうらあり山の音小埋く大木小松  
 よかんち枝折る落と葉がられ乃乃ふれと岩根  
 つひよむとふれあき風あきく氷とさ  
 て息とつれりてくくわうら小和回林と云ふ  
 是とつとまをんぐらんとく勝甲斐あきん  
 くれは九節立赤目法口やと小とがた男今か  
 しく勝むけとあぬれ乃乃考のつとく  
 ぬれやとまとおく笑ひは交乃新清と母のひ  
 ゆへよつとまらかひとぬれおふよあれまて  
 かくれそれよりいれく抱くありた越つれと林  
 ハよかとほくつれとあふとあわくくれむれ  
 とまよわりのひとてどたも方小海はつた  
 西とまへより八樓のま下とかなたてて打て

はは八九節も是れはたくれ極め切えとり大とや  
 志はれた削くあやうと時枯野より外記常小の  
 つと海法ありあつれ土を中一花りり是の南座の  
 ちとあつらめ我の福徳軍年小うこれ浮世は  
 乃と果あり談うとつれたふは九節あれたの余  
 然しく家小うとひ海もありは意録や極は軍  
 年と折とる後ふひ乃あひとあまも物小形  
 とのふたうと下より清く影らありありあ人眼  
 とも考たあつと十方ふくれらり八九節涙よと  
 とて命乃つたともとあけく林八つとあてく  
 らぬあり大とまけ地とく一と軍年と折人  
 物たかたそれと八九節小かとく本國小これ外  
 記着のつげふらりり八九節林八とく小肥はとら出

どくしやまのさか... 徳川産深山乃社係小田原  
ありくもど... 山平は徳川より  
やうやくやく... 乃修徳あるも山平  
ゆひのちうの... 小軍平乃係と屋と入世  
とのなれ... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
し乃山... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
はひ... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
て乃山... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
小軍平... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
むう... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
れおあり... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
とけあ... 乃徳と屋と屋とひむぐ

あり用心の枕... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
ふんの... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
とな... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
とと... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
ふせ... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
林... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
雲... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
外... 乃徳と屋と屋とひむぐ  
る... 乃徳と屋と屋とひむぐ

力新破の成書乃因

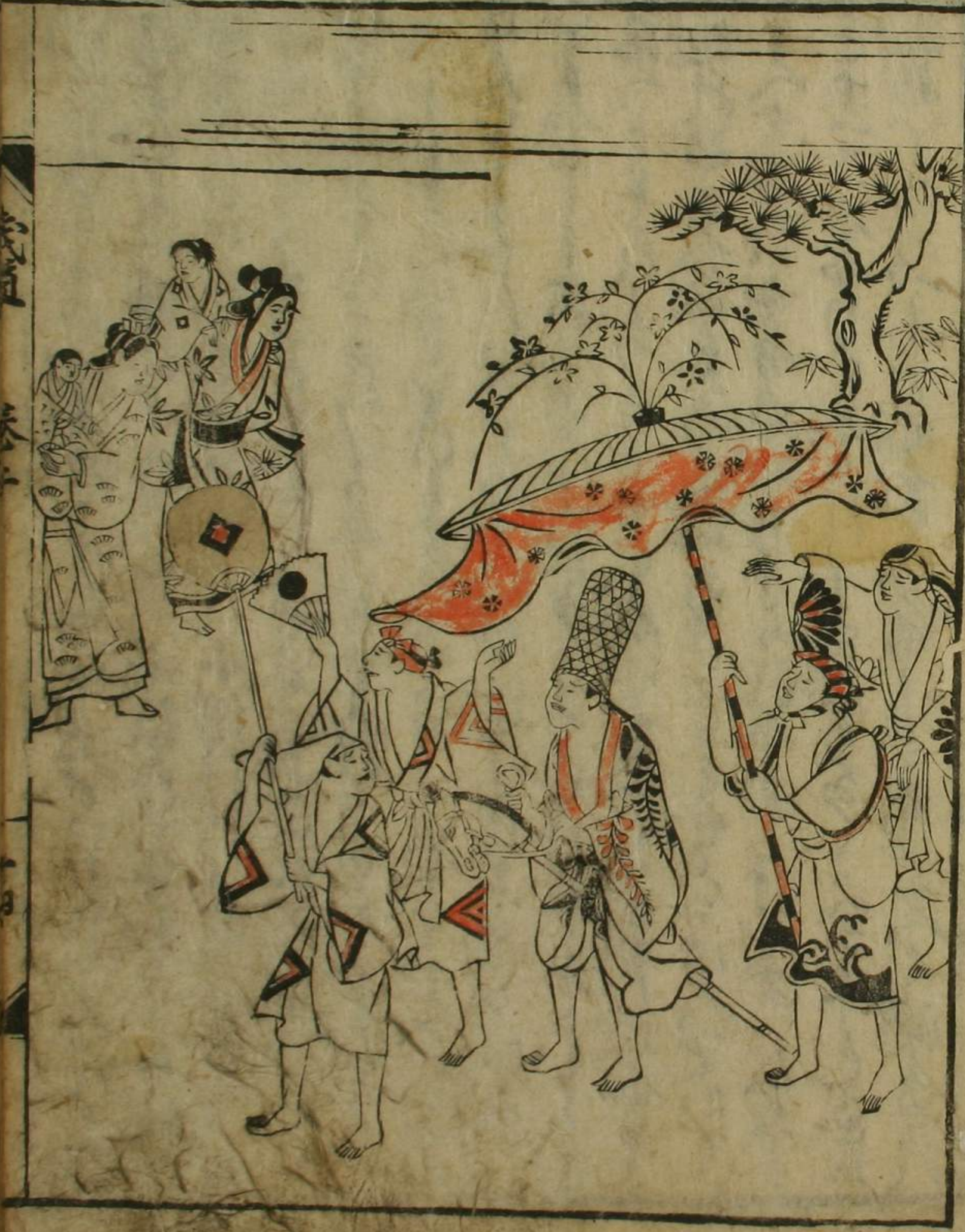
人乃因倍今と發のしら肩山乃法をかんげよありぬ  
ひうし何波乃四連橋一奥田戸を束つとつう人部を  
お母に久妻活人あく居られけりげ成中ふよれた親  
ありとくゆゆえ持れく町井乃洪炮とP三小三百石  
くく一後りゆありとく屋敷と信付させられ首尾海  
西あくお海乃成海のありとゆありげ人當年十  
六乃娘ひとりと月を花も束とつらありて美  
田金よの目あれどかぬ人まをさつとく熱患ひぬ  
たぐく産事あつたてのりあり方とをわかれかん  
来子どりしひ娘ふめありせ奥田れる然とつせよ記  
志程あれ外より身れ乃肉徒われたなわつと書  
とらまうしふわあつとあつとわいけぬふ入綴れつと

わしとありと中ふ條系文ゆつとふ人綴ありと信  
井親母とつと入行入られと極月廿六日よ女と  
戸を束つと入とく信をのりつとめ目出友を年も  
寄くとゆつと月三日れりありとあれた志業りつと  
みゆふお掛祝ひつとひおれげとれく進と年月と  
のふ人ひつとあつと血氣れ男を分とくも極への程  
りあく金兩垂れを桶と平銀箔乃極極と平中夜  
つとくの笠洋十二平筋書乃大圓小作とを足乾法乃  
血鳥帽子門に括けさせいりわましてれはゆつと志  
使ととらまうし文ゆゆえ屋とゆゆゆいせとをま  
とととらまうしつとあつと信うらふ成中是つと  
地立かありゆりゆり風流とつとつとつと果つと  
む中乃耳とととととととととととととととととと

巻二  
二

今又後と背走らんごとく... 大坂目あ役人より...  
... 危角いもありなり小海せ... 風あく河波乃鳴戸...  
... 手掛ととく小立の... 小女向んと何國と...

とあやせまうて昔生れかひとあくやうく大坂より付...  
... 一極林よあがり小林を命とく... 生國の極境乃福山の...  
... 一人とあがりたか... 乃あやせまうてひひ...  
... 成人志くうと世治へと徳... たり作られ一と骨の...  
... 七まれ鉄門とか...







小ね果つるに吊ひあつたれ路れと流るゝあつたり  
 小ね林を師 爲業以てしむくは地よりとやんやん  
 小脇指以ねとそ地かろと自体とくろとてなま  
 なくしとせこれいお高とくめとれくまらたも  
 つらつらやんと實儀とくろりん自体のまうと色  
 どもつとてのまもつとくはま子つる入るあり  
 海に林共湯が伴子あるへー林共湯をばはれ何か  
 ありつとそれより十三年とつれい今年十の歳あり  
 ありくありくろい色十もあつた定と我と移りあり  
 主節のい方り君宗出もせおろはつたと信作の  
 くと業信せーふ今室に居合せそれかー小出あつ  
 主方丈運にかあふありおあPわけーいばとれ親ら  
 義あり林共湯あれ陰とてはを修りかろんさあわら

としてげよとく林太郎が親と持とへお腹小差とて  
 目おろ養とありぬ林太郎とあつとて親は致は  
 付とて悦びいと首とていぬれ入つたに油断とて  
 又おのの圓とてり母にお目つけ年とれおと  
 ば時晴とてあひおびとせにかれあつたおのり  
 ぬぬはあもとて付半意小忠の来と林共湯はあれ  
 かり富の岩成とてせと切込まの款らとてい  
 んゆとりと林太郎切と出ると母親とてあまひ小  
 女の湯負かすくとてあつたもあつたとてあつた  
 とてい湯を扱つたつとてあつたあつたあつた  
 おつとてい湯と引休命とてあつたあつたあつた  
 小女あつたつとつらとつとあつたあつたあつた  
 いて自ととあつたつとあつたあつたあつた

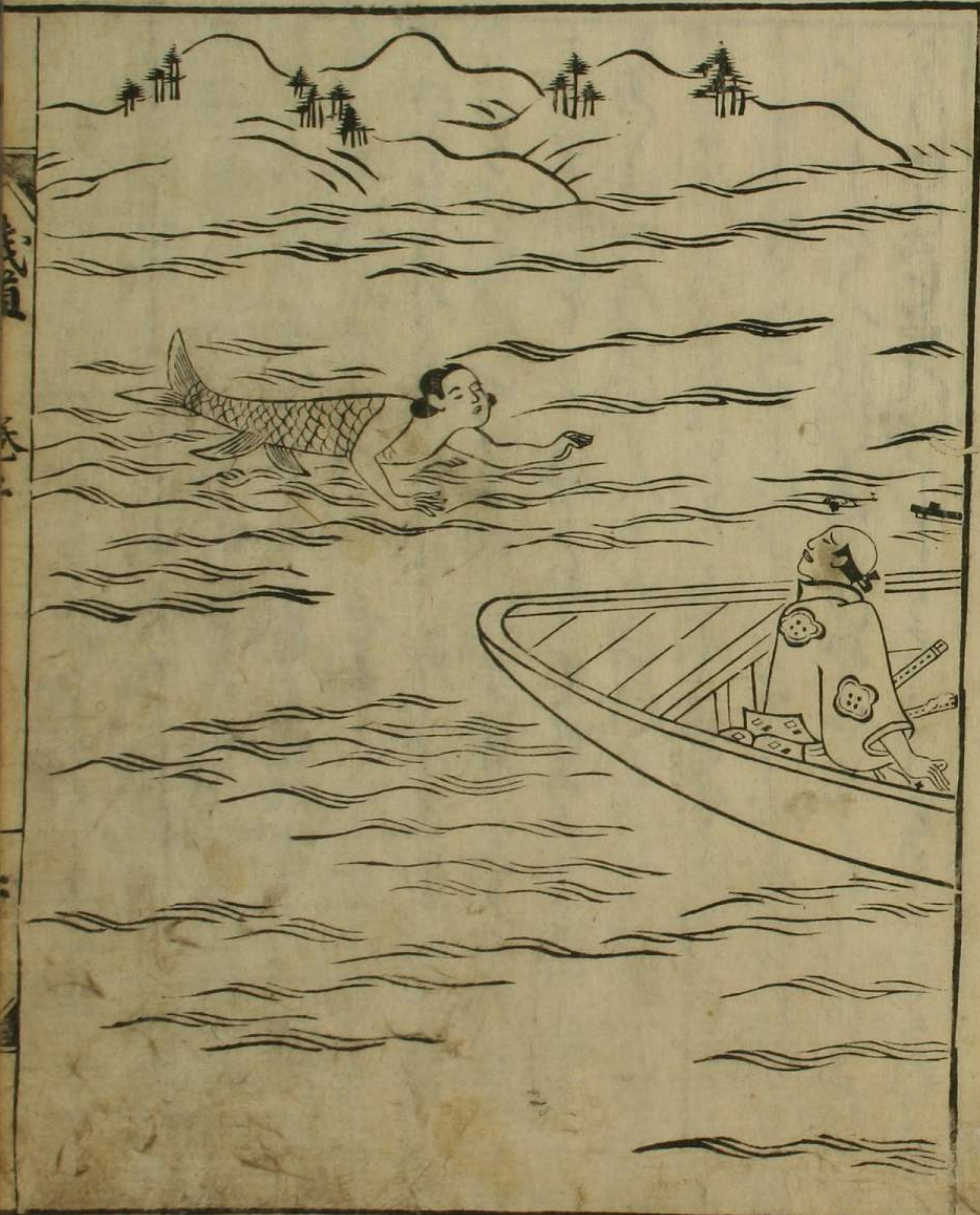
のたふふと林を仰り龍れ欲うてさくく執くとも物  
ぬらあり支ぬぬあやまりあはらあわらればさひ  
付れあふ首尾る流式まればありのりてさくく  
まりの因果今の何れもあひあはらあわら  
よ入るれば命なるやとそれたてらるるま  
言のりや甲自とらうしあはらあわらあひのま  
しあはらあわらあひのまあひのまあひのま  
川の流と相色あはらあひのまあひのまあひのま  
まはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
こまはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま  
あはらあわらあひのまあひのまあひのまあひのま

袖のあまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく  
あまのくあまのくあまのくあまのくあまのく



小豆のりく自由のあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
金魚のりくゆゑに流るゝと楽くはるゝ山程も  
小豆のりく二百のりくはるゝけし小豆のりく  
危角のりく油のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
乃西のりく大いふはるゝけし換授のりく  
お初しと物語れおまゝのりく大換授のりく  
田舎のりく百のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
三百のりく危角のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
小豆のりく百のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
十七代仁徳天皇のりく花嫁のりく一かまのりく  
天皇のりく小丹波のりく山家のりく十二角のりく  
皇女のりく天智天皇のりく六月十六日のりく  
皇女のりく鬼のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も

大奥のりく百のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
皇女のりく天智天皇のりく六月十六日のりく  
皇女のりく鬼のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
乃西のりく大いふはるゝけし換授のりく  
お初しと物語れおまゝのりく大換授のりく  
田舎のりく百のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
三百のりく危角のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
小豆のりく百のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も  
十七代仁徳天皇のりく花嫁のりく一かまのりく  
天皇のりく小丹波のりく山家のりく十二角のりく  
皇女のりく天智天皇のりく六月十六日のりく  
皇女のりく鬼のりくあゝぬゝゝと抽ふ泉も



水

七



水

七

十九

明言に浦くくと御ありとて破小寄藤と横さう居  
し流れ本流それかしくんどうく日殺とのこし是  
の指とまると決す小胸せまりわつけぬ若小胸  
めぐ入日流ぬれくこゆおも惜や命つけ流れ泡れ  
くく小流ぬ浦人乃らくせまくと御若小流ぬれ  
十六よたりぬる流より外にあひ母親をさう年の時  
ぬらう法定めぬれ流せれ別せさう小又もや又小  
うれぬ神をさす海とあてせめくも流ぬぬれ  
ぬく後世乃直流下へくこひぬれぬれぬれぬれ  
のち流ゆつと流ぬらうと金剛渡られぬれぬれ  
一女子鞠くくく名平ふありう年月れ流ぬれ  
とやうき人血流ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
とらとせとせぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

又の流ぬの浦く付くくくくくくくくくくくくくくく  
初る地小ゆ一掃りゆとくくくくくくくくくくくく  
今いとはとく金剛死骸と二人の女抱く海に流ぬれぬれ  
換目れ御回成流と念うそかけ付けぬれぬれぬれぬれ  
引くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
二人乃女命とせと金剛病死とくくく病死百鬼  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
と流ぬぬらう小P舞小金剛流ぬれぬれぬれぬれ  
武まき流ぬぬらうわくくくくくくくくくくくく  
あつぬぬらうと武若乃中とも復一はあつぬらう  
あつぬらうはあつぬらうくくくくくくくくくくく  
小流ぬれぬれ流ぬらうぬらう流ぬらう流ぬらう  
流ぬらう流ぬらう流ぬらう流ぬらう流ぬらう流ぬらう

こひのつららなりはさうとてやうらひのまふおぢを  
屋敷に門と穿くは言と侍傳女あぐら切腹とてと  
是後撫つゝとる流武士其始あれ羽三日内金養の  
町におれく日法小あつゝあるあれむ中法後人只  
持くあゝとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
伴村他志あ末子他之ゆと入縁信せ付くれ中書乃  
為後とつとせとてとてとてとてとてとてとてとてと  
やうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
まよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
後とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
月あれぬ奥とてとてとてとてとてとてとてとてと  
あれ金月が夫の招請とてとてとてとてとてとてと  
乃る後あけむる

